

●人口構成の移り変わり

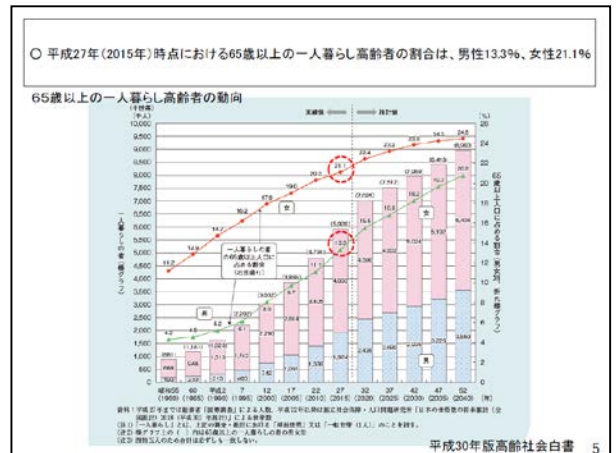
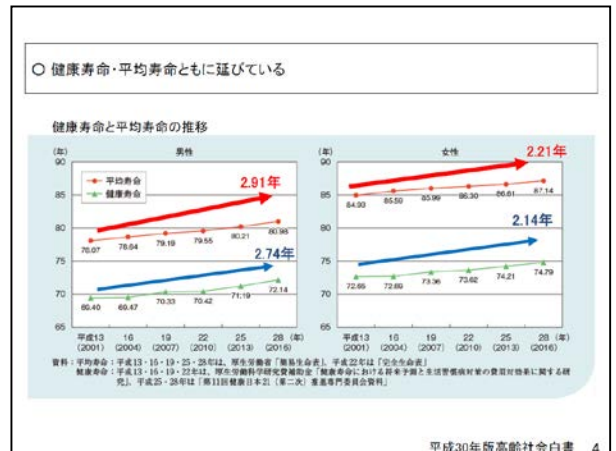
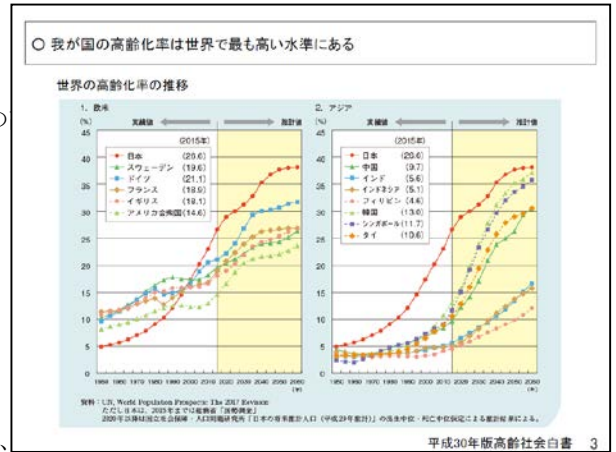
これが将来どうなるか、2065年まで予測を引き延ばしていきますと、38.4%。4割近くが65歳以上になるとい、そういう社会というのが予測されているということでございます。この次のグラフですけど、日本のを世界と比べたものです。左側が欧米諸国と比べたもの、それから右側がアジア諸国と比べたものということでございますけれども、いずれも日本が赤線になりますけれども、日本の高齢化率というのが非常に急速なスピードで上がってきていると。しかも、世界最高水準にまで上がってきているというのが、非常によく分かると思います。特に、アジアは今でもかなり先陣を切っているのですが、実は中国や、韓国なども後を追って急速に高齢化していくということ。特に、アジア諸国から日本というのは注目されている状況でございます。

●健康寿命が延びている

それから、健康寿命、平均寿命、男女別に分けてグラフ化しております。例えば、男性をご覧くださいますと、平均寿命のほうは2001年から2016年までで2.91年延びました。他方、健康寿命というのは、2.74年になっております。ということは、この間に平均寿命と健康寿命の差が広がっているという、少し広がっているということなのです。高齢化すると有病率は当然、高まりますので、健康寿命というのを延ばすのが大変になってくるわけですが、清家先生の言う健康寿命を延ばすということが、いかに大変かということがお分かりになるかと思ます。本当に意識して健康ということに気をつけていかなければ、なかなか健康寿命を平均寿命以上に延ばしていくというのは大変だということでございます。

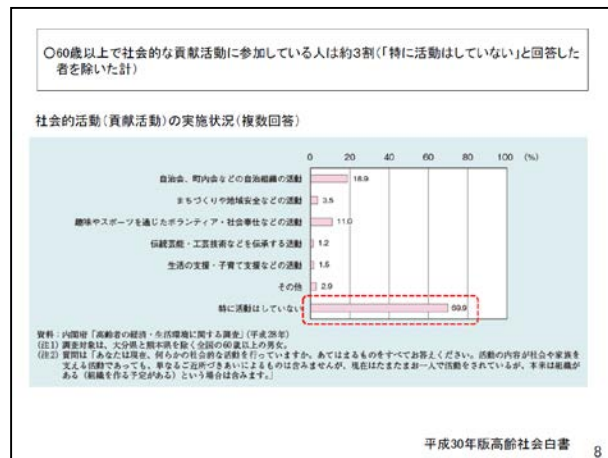
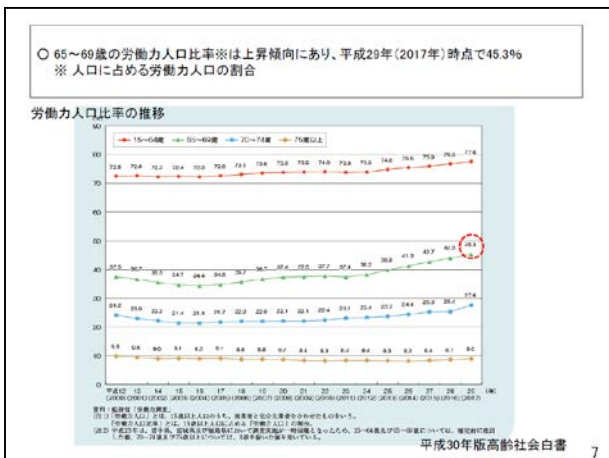
●65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合

それから、高齢化の中でもう一つ気になる事象というのがありまして、家族形態の変化ということもあり、一人暮らし高齢者の方が大変増えております。折れ線グラフが、一人暮らし高齢者の数を全体の高齢者の数で割った割合ですが、女性は大体、2割ぐらい。それから、男性は13.3%が一人暮らしということになっておりまして。このような方、やはり何かあったときに家族の手助けが得られないということで、社会で支えていかなければいけないリスクも高い方が増えているということも、今後の懸念点であるというふうに思います。

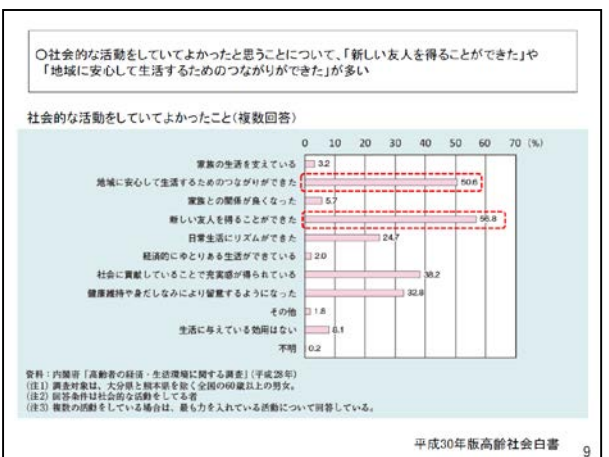


●就労、社会参加の状況

それから、就労、社会参加の状況でございますけれども、先ほど、労働力率について清家先生からお話があったかと思っておりますけれども、これが現在までの労働力人口比率の推移でございます。赤い線は、現役世代です。先ほど、おっしゃったように30代女性や、女性の社会進出が進んだということもあり、77.6%まで増えております。一方、高齢者のほうも真ん中の緑の線になりますけれども、特にその65～69歳の層が今、労働力という意味では増えてきております。これは定年制度に関する制度見直しとかも影響がありますけれども、実はちょっと細かく見ると、女性の50代、60代のかたがたの働いている率率というのが、ここ10年ぐらいすごく上がってきております。恐らく、旦那の年金が心配な奥さんたちというのが、結構、働きに出られているのかなと私は思っているのですが。そういう意味では、いろんな制度の変更に伴って高齢者の働く意欲というのは今、高まってきているのではないかというふうに思います。



それから、働くというだけではなくて、きょうのシンポジウムでもいろいろ話が出てくると思うのですが、広い意味での社会参加活動に加わっていただくというのも、高齢者のかたがたにとって健康寿命を延ばすという意味でも非常に重要なことなんじゃないかなというふうに思っております。ところが、これは平成28年の調査結果ですけれども、特に活動はしていないというお答えになっている方が7割ぐらいでございます。現在は、働く以外の社会的な貢献活動に参加されている方というのは、今、3割ぐらいということになっております。働くだけではなくて、さまざまな社会参加活動をこれからも広げていくことが大事だと考えております。社会的な活動をしてよかったですと思えることとして特に多いのが、地域に安心して生活するためのつながりができた。それから、新しい友人を得ることができたということで、お金に換えられないいろいろメリットがあると考えております。



【政府の取組み】

●高齢社会対策大綱の3本柱

政府の取組みを少し最後に簡単にご紹介します。高齢社会対策大綱というところで、去年の2月ですけれども、今後5年間の大きな方向性ということで閣議決定をいたしました。その中で、2の基本的考え方、真ん中より下の所を書いてありますけれども、大きな3本柱で施策を進めていくことになっております。1つは、年齢による画一化を見直して全ての人が活躍できるエイジレス社会を目指すということ。それから2点目として、地域で暮らし続けられるような、そういうコミュニティをしっかりとつくっていくこと。それから3点目として、技術革新の成果を生かすというところを大きな3本柱に掲げております。具体的な施策としては、少し細かいので省略いたしますけれども、就業所得のところ、まさに清家先生がお話いただいたのと、ほぼ同じような内容が並んでおります。それから、健康福祉のところもいろいろ内容が並んでおりますが、最近、特に力を入れておりますのが認知症対策です。やはり認知症になると本人も大変ですし、周りも大変ということがあるので、まず予防から始めて認知症になっても地域で生活していけるような環境づくりということで、昨年12月に閣僚級の会合というのもつくられたところがございます。それ以外に、学習及び社会参加の促進、それから生活環境の整備といったようなことも進めているところがございます。このあたりにさせていただきますけれども、国としてはさまざまな環境整備を進めているところですが、やはり大事なのは、高齢者ご自身、それから地域の皆さまというのが誰でも活躍していける、当事者になっていろいろな活動をしていただくということだと思っております。この後のシンポジウムで具体的な話が、いろいろ出てくるかと思しますので、ぜひ、午後もご参加いただけますとありがたいと思います。きょうは、どうもありがとうございました。

第2 分野別の基本的施策(主な施策) ※ニッポン一億総活躍プラン、働き方改革実行計画、新しい経済成長パッケージ等との連携

<p>1. 就業・所得</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エイジレスに向ける社会の実現に向けた環境整備 副業・兼業の普及促進、リカレント教育の抜本的拡充、高齢期の職業支援、公務員の定年引上げの検討 ○公的年金制度の安定的運営 年金の支給開始時期の繰戻しの拡大(70歳以降)の検討 ○資産形成等の支援 IDCo等私的年金制度等の普及、高齢期にふさわしい金融商品・サービスの提供、認知能力低下に対応した高齢投資家の保護 <p>2. 健康・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康づくりの総合的推進 健康寿命延伸に向けた取組、ライフステージを通じた健康づくり・スポーツ活動 ○持続可能な介護保険制度の運営 地域包括ケアシステムの強化・推進 ○介護サービスの充実(介護離職ゼロの実現) 介護職員の処遇改善、介護サービスの質の向上 ○持続可能な高齢者医療制度の運営 認知症高齢者支援施策の推進 新オレシプラン等による適時適切な医療介護 ○人生の最終段階における医療の在り方 病状に適切に対応できる人材の育成、国民向けの情報提供 ○住民等を中心とした地域の支え合いの仕組みづくりの促進 <p>3. 学習・社会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習活動の促進 多様な学び機会を提供、社会保険教育の促進、ICTリテラシー・ロボット体験機 ○社会参加活動の促進 	<p>4. 生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かで安定した住生活の確保 リバーズモーダーンの普及、住宅確保要配慮者向け賃貸住宅の供給促進 ○高齢社会に適したまちづくりの総合的推進 「生活環境のまちづくり」バリアフリー・電車の無断、コンパクト・プラス・ネットワークの推進 ○交通安全の確保と犯罪、災害等からの保護 運転免許制度の見直しと検討等高齢運転者の特性を踏まえた対策推進、安全運転サポート車の普及開発 ○成年後見制度の利用促進 地域連携ネットワークの構築、欠格事項の見直し <p>5. 研究開発・国際社会への貢献等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先進技術の活用及び高齢者向け市場の活性化 介護ロボットの開発、ゲノム科学、無人自動車運転サポートサービス ○研究開発等の推進と基盤整備 統計・調査の目的に応じ、年齢区分を70歳、75歳、80歳など細分化したきめ細かい現状分析 官民データの利活用促進 ○諸外国との知見や課題の共有 日本の知見を諸国に提供すると同時にアジア人材の拡大等、日本の知見の国際社会への展開、課題共有・連携強化 <p>6. 全ての世代の活躍推進</p>
---	---

第3 推進体制等 ○数値目標等の設定 ○関係行政機関間の緊密な連携・協力 など 12

エイジレス・ライフ実践者及び社会参加活動事例に関する紹介事業

我が国では、平均寿命が男性で80歳、女性で85歳を超えており、高齢期においても、地域や人とのつながりなども求められながら充実した生活を送ることは、すべての人にとって重要な課題。
 ◎自ら高齢者ボランティア、又はこれらから習得した生活スキルを次世代の高齢者に対する生活力の向上に資するため、自治体と連携して、エイジレス・ライフ/年齢にふさわしい生活を送ることを実践している者及び地域において社会参加活動を積極的に行っているグループを表彰(表彰)し、広く紹介。
 ◎近年では技術革新により高齢者をとりま(社会環境)が変化していることも踏まえ、多世代が共生する地域活動や自ら発見の団体の紹介。新しい技術の活用といった内容が盛り込まれている取り組み事例も積極的に紹介予定。
 ※長寿社会にふさわしい活動事例を広く紹介することが主眼であり、表彰ではないことから、「表彰」の表記はしない。

<p>都道府県等による推進</p> <p>(平成30年度) エイジレス・ライフ実践者 76名 社会参加活動グループ 64団体</p> <p>(例) ・県民文化の伝承活動 ・防災対策の普及啓発 ・緑化・農化活動、子育て支援活動・・・</p>	<p>内閣府による選考</p> <p>(平成30年度) エイジレス・ライフ実践者 58名 社会参加活動グループ 44団体</p> <p>◆選考基準◆ ・活動内容が人々の共感を呼ぶこと ・目的が明確で継続的な活動 ・ITの活用等イノベーションであること 等</p>	<p>選考委員会</p> <p>＜委員＞ 学識経験者3名 自治体職員1名 市民1名 その他2名</p> <p>＜委員長＞ 長尾 隆樹 (桜井医科大学名誉教授)</p>
---	---	---

広報・啓発

- 内閣府のホームページで事例を紹介
- 自治体ごとに広報(高齢者に注目して集まるタイミングで実施)
 - ※「老人の日」(9月19日)関連のイベントで広報 等
- 各人の自己PR(自己)に合わせて記者発表(ホームページ掲載、ローカルメディアへの情報提供 等)
- 高齢社会フォーラム(地方開催)で一部の表彰とビデオ紹介(29年度:山口県下関市、29年度:宮崎県宮崎市、30年度:青森県八戸市)

13